

■教員情報

氏名／name	梶本 佳照／ Kajimoto Yoshiteru				
職 位	教授				
所 属	健康保育学科				
学 位	修士(教育学)				
免許・資格	<p>中学校一種免許状 理科 (昭和52中一普第370号) (島根県教育委員会)</p> <p>高等学校一種免許状 理科 (昭和52高普第375号) (島根県教育委員会)</p> <p>小学校二種免許状 (昭53小二普め第1624号) (京都府教育委員会)</p> <p>中学校一種免許状 理科 (昭和52中一普第370号) (島根県教育委員会)</p> <p>高等学校一種免許状 理科 (昭和52高普第375号) (島根県教育委員会)</p> <p>小学校二種免許状 (昭53小二普め第1624号) (京都府教育委員会)</p> <p>教育情報化 (ITCE) コーディネータ2級取得 (教育情報化コーディネータ認定委員会, 取得時: 一般財団法人日本教育工学振興会)</p> <p>英国ThinkBuzan社認定: Instructor in Mind Mapping</p>				
実務経歴	<p>小中学校の教員としての実務経験を持つ</p> <p>ICT活用研修会の講師としての実務経験を持つ</p>				
専 門	教育工学、生活科				
授業	<table border="1"> <tr> <td>大学</td> <td>自然科学Ⅰ、基礎ゼミナール、ICTリテラシー、生活、教育方法・技術論、教職実践演習 (オムニバス)、卒業研究Ⅰ～Ⅳ、</td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>—</td> </tr> </table>	大学	自然科学Ⅰ、基礎ゼミナール、ICTリテラシー、生活、教育方法・技術論、教職実践演習 (オムニバス)、卒業研究Ⅰ～Ⅳ、	大学院	—
大学	自然科学Ⅰ、基礎ゼミナール、ICTリテラシー、生活、教育方法・技術論、教職実践演習 (オムニバス)、卒業研究Ⅰ～Ⅳ、				
大学院	—				
研究業績・研究テーマ	<p>【研究テーマ】 教育の情報化</p> <p>【研究業績】 主要著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野中陽一, 高橋純, 堀田龍也, <u>梶本佳照</u>, 他22名: 著作権および著作権教育に関する教員研修. 野中陽一(編), 教育の情報化と著作権教育. 三省堂, pp. 48~53. 2010. ・堀田龍也, 丸山岳志, 重政晶子, <u>梶本佳照</u>, 他43名: 保護者への啓発がなぜ必要か. 堀田達也, 西田光昭 (編), だれもが実践できるネットモラル・セキュリティ. 三省堂, pp.162~163, 2018. ・広島市立藤の木小学校, 藤の木小学校の実践から学ぶところ藤の木小学校 未来の学びへの挑戦Ⅱ「鍛えて発揮する」主体的・対話的で深い学びを実現する かく活動×ICT活用. 教育同人社, pp.14~18, 2018. ・堀田龍也, 高橋純, 八木澤史子, <u>梶本佳照</u>, 他11名: 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術. 堀田達也, 佐藤和紀(編), pp.216~227, 三省堂, 2019. <p>主要論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>梶本佳照</u>, 木原俊行: 「教育の情報化」が進展している学校の特徴に関する考察, 日本教育工学会第28回全国大会発表論文, pp.761-762. ・<u>梶本佳照</u>, 高橋純: 学校に対して保護者が求める情報. 第41回全日本教育工学研究協議会全国大会発表論文 (頁数記述なし) ・磯野純一, 戸崎聡, 村松雅, <u>梶本佳照</u>, 高橋純: 学校経営を支援するための不登生徒の欠席情報の傾向分析. 第42回全日本教育工学研究協議会全国大会発表論文 (頁数記述なし) ・梶本佳照: 「情報モラル教育」は大学生の中にどのように位置づいているか-大学生への質問紙調査より, 第43回全日本教育工学研究協議会全国大会発表論文 (頁数記述なし) ・仲間 妙, 佐藤和紀, <u>梶本佳照</u>, 磯崎ひろみ, 高橋純: 小学校向け漢字ドリル指導法を教員志望学生が学ぶための講義パッケージの開発. 日本教育工学論文誌, 42, pp.125-128 				

研究キーワード		ICT、情報活用能力、生活科			
地域活動		1) 梶本佳照：豊かな言葉で主体的・対話的で深い学びに向かう子どもの育成、ICT活用公開研究会、広島市立藤の木小学校 2) 梶本佳照：効果的なICT活用、ICT活用研修会、福山市立日吉台小学校 3) 梶本佳照：授業へのタブレット活用、ICT活用研修会、多可町教育委員会 4) 日本教育工学協会(JAET)理事 5) 学校情報化認定委員会委員（日本教育工学協会） 6) ICT活用教育アドバイザー（文部科学省） 7) 「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー」検討委員会委員（一般財団法人日本教育情報振興会）			
URL					
実務経験と授業科目との関連性 (担当する科目に対して、どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)	科目名	履修学年	単位数	学 科	授 業 内 容
	ICTリテラシーⅠ	1	2	全学科	Microsoft Office Word、Excelの基本的な操作方法、各種統計資料の入手・閲覧の仕方について、実習を通して習得していく。情報モラルについては、インターネットを利用した様々なサービスを使用する上で知るべき、身を保つために求められる最低限のルール、マナー、そして注意すべき点について学ぶ。
	ICTリテラシーⅡ	1	2	全学科	Microsoft Office PowerPointの基本的な操作方法とプレゼンテーションの基本構成の仕方を習得する。また、「ディープラーニング」と呼ばれるアルゴリズムを用いるAIの仕組みを複雑な数学計算はExcelにまかせてExcelを動かすことを通して理解する。
	自然科学Ⅰ	1	2	全学科	地球温暖化やESD（持続可能な開発のための教育）に関するテーマについて資料を調べ自分の考えをまとめて相互に発表し評価を行う。
	生活	1	2	健康保育	初等教育の生活科について、主として理科的内容を中心に学修します。生活科で取り扱う項目である、生き物を育てる・ものを作る・情報の伝達・野外に出る・季節の行事などについて、教育現場で柔軟性をもって計画・実行できる力の養成を目的とする。
	教育方法・技術論	3	2	健康保育	ICTを活用した教材の作成方法と保育への活用方法を身に付けるとともに、改訂された保育要領及び保育所保育指針の改訂趣旨について中央教育審議会答申を踏まえて学ぶ
	教育方法・技術論	3	2	看護	初等中等教育の特徴と新学習指導要領の基本的な考え方を理解するとともに教えるために必要な「教える技術」「授業デザイン力」「クラス運営力」について理解するとともに、板書方法や発問、説明の工夫について知る。さらに、教授・学習理論、カリキュラム、学習指導、学習指導要領の変遷、教育評価についても知る。
教育実践演習	4	2	看護	教職課程の他の科目で学んできた教育の理論や知識をより発展させ、「履修カルテ」を通して振り返りそれらを有機的に統合し、養護教諭としてのさらなる自覚と認識を深める。授業形態は、グループ討議、ロールプレイ、模擬授業等を組み合わせ、養護教諭として現場に対応できる実践的な授業を展開し、より確かな実践能力の向上を目指す。さらに、学校現場の見学も行い自らの養護教諭像を確認する。	